

高田正行



自画像 Born.1891 ~ Died.1936

志行展を開催するにあたって

郷土の産んだ地元洋画界の祖、宮地志行の作品が、半世紀を経た今、再び甦ろうとしています。

明治・大正・昭和の三代を駆け足で走り去った宮地志行、四十五歳の生涯。

一部の人には、高く評価されながらも、彼の作品はほとんど発表されることも無く、地元でも志行を知る人は少ない。

本展を、生涯学習に取り組む瑞浪市市制四十周年記念事業の一環として開催いたします。

先人の業績を顕彰し、後世に伝えることは、今に生きる我々の務めだと考えます。

美をとおして、心をはぐくみそだて、作品を鑑賞いただくことによつて、そのひととなりに触れていただければ幸に存じます。

平成六年三月

瑞浪市教育長 太田正彦



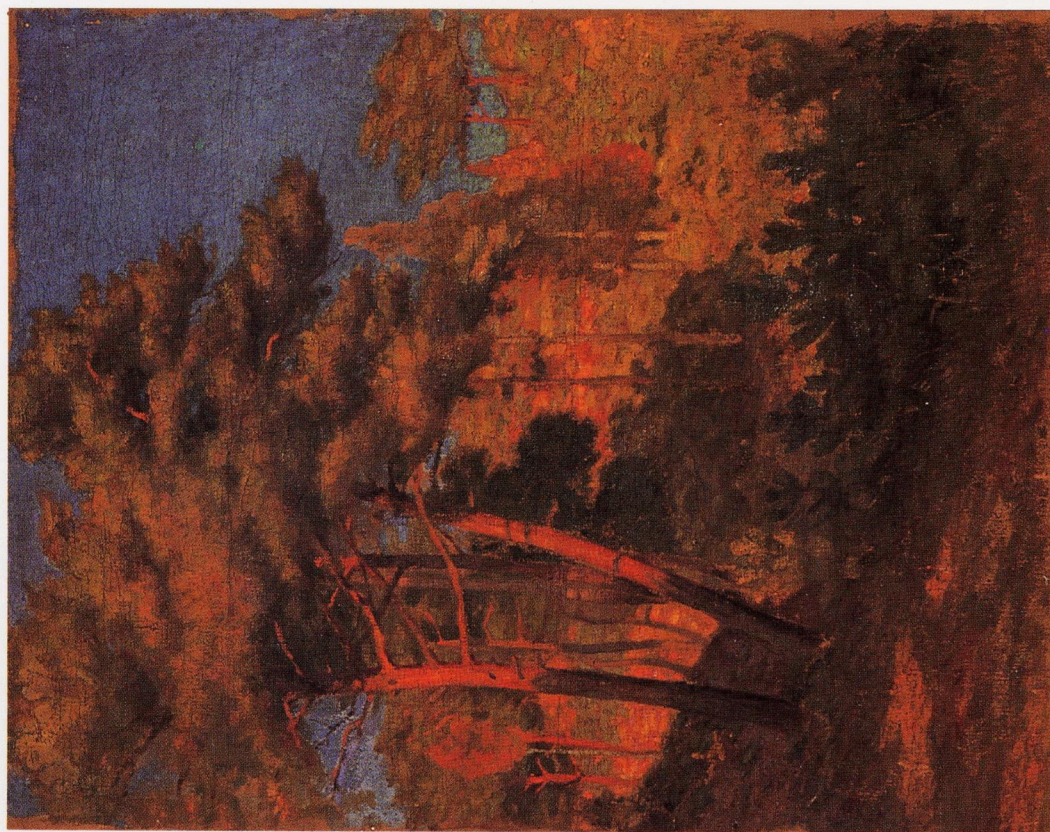
1918(大正7年)

宮地志行





裸婦群像 (136.0×161.0) 昭和初期



赤松 [83.0×65.0]



漁村 [53.0×73.0] 1912 (明治45年)



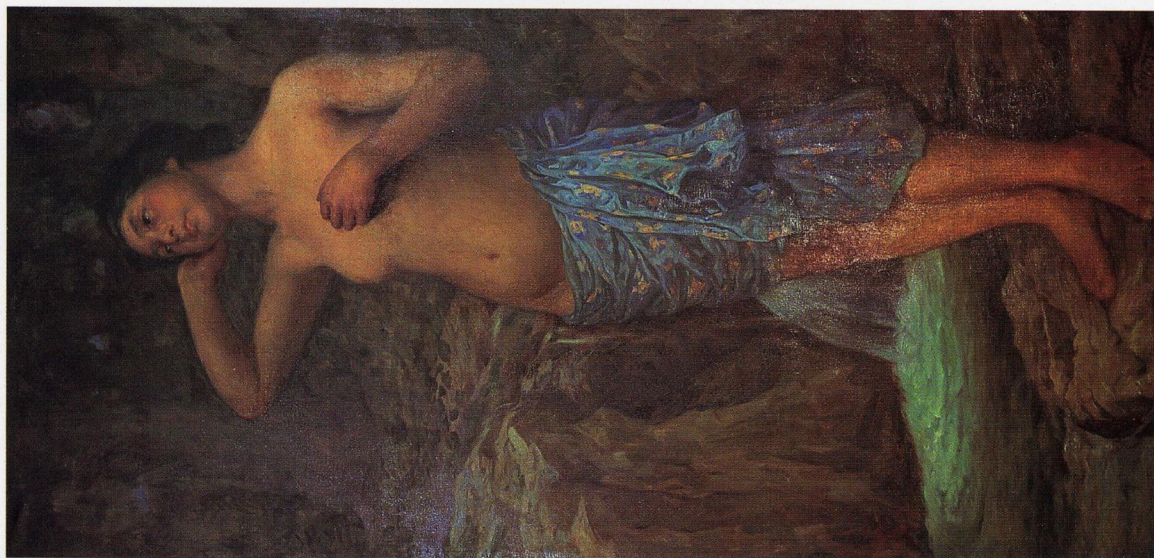
ストーブをたく少女 [91.0×64.0] 1815 (大正4年)



遊び [61.0×45.5] 1921 (大正10年) 頃



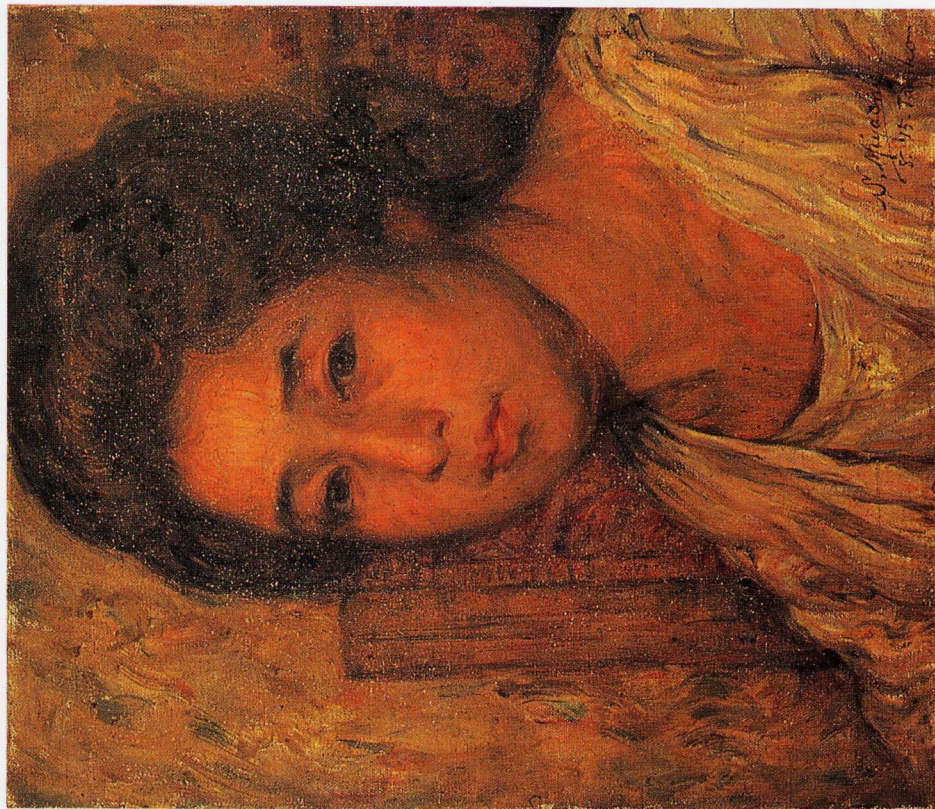
読書 (136.5×112.5)



浴 (194.0×93.8) 1919 (大正8年)



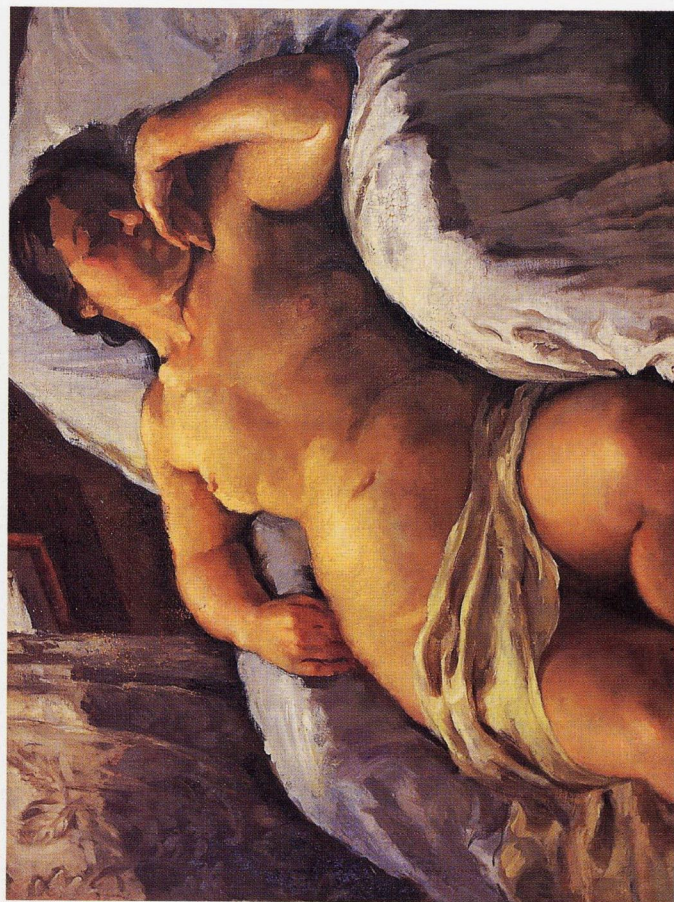
自画像 (65.0×53.0) 1922 (大正11年)



光枝 (52.5×45.0) 1926 (大正15年)



装い [137.0×112.0] 1929 (昭和4年)



窓辺の裸婦 [91.0×116.5]



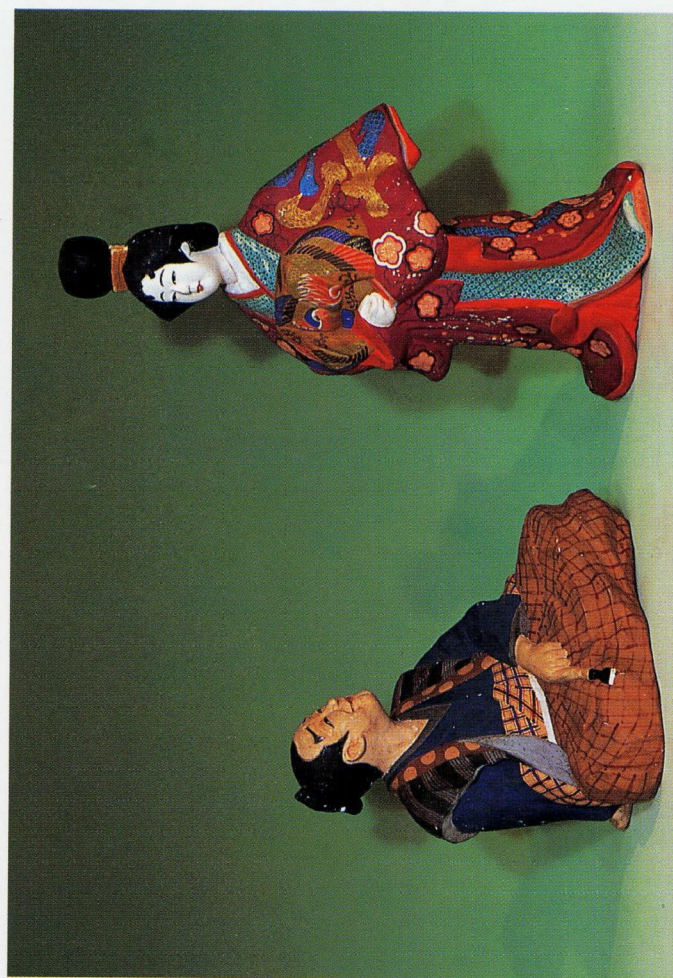
トルソーのある静物 [115.5×90.0]



母娘 [190.0×151.5] 1934 (昭和9年)



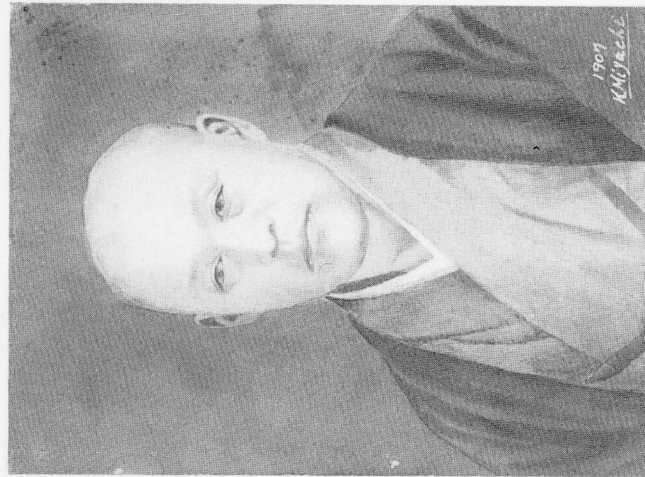
渡辺徳助肖像 [93.5×63.5] 1918 (大正7年)



土雛 左 甚五郎 h. 230 静 h. 370

1891年（明治24）7月26日
岐阜県土岐郡日吉村に生まれる。

16才



小栗兵左衛門 [40.7×30.0] 1907（明治40年）

19才



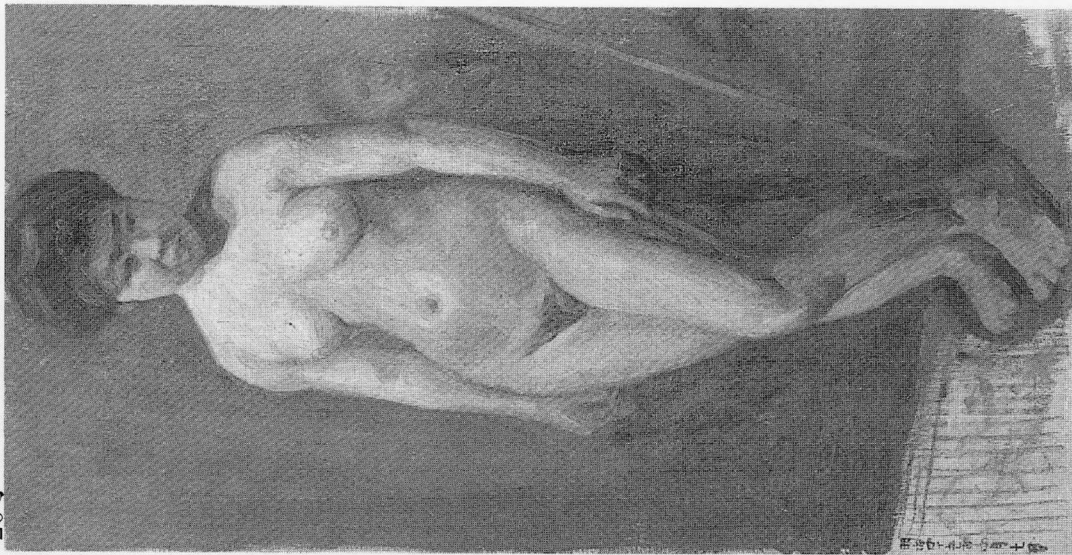
少女 [45.6×32.0] 1911（明治44年）

11才



参考作品（少年） [28.5×19.0] 1902（明治35年）

20才



裸婦 [72.0×36.0] 1912（明治45年）

23才



マントの少女 [89.0×64.5] 1914 (大正3年)

23才



女 [100.0×78.0] 1914 (大正3年)



鏡の前の女 [100.0×80.3]



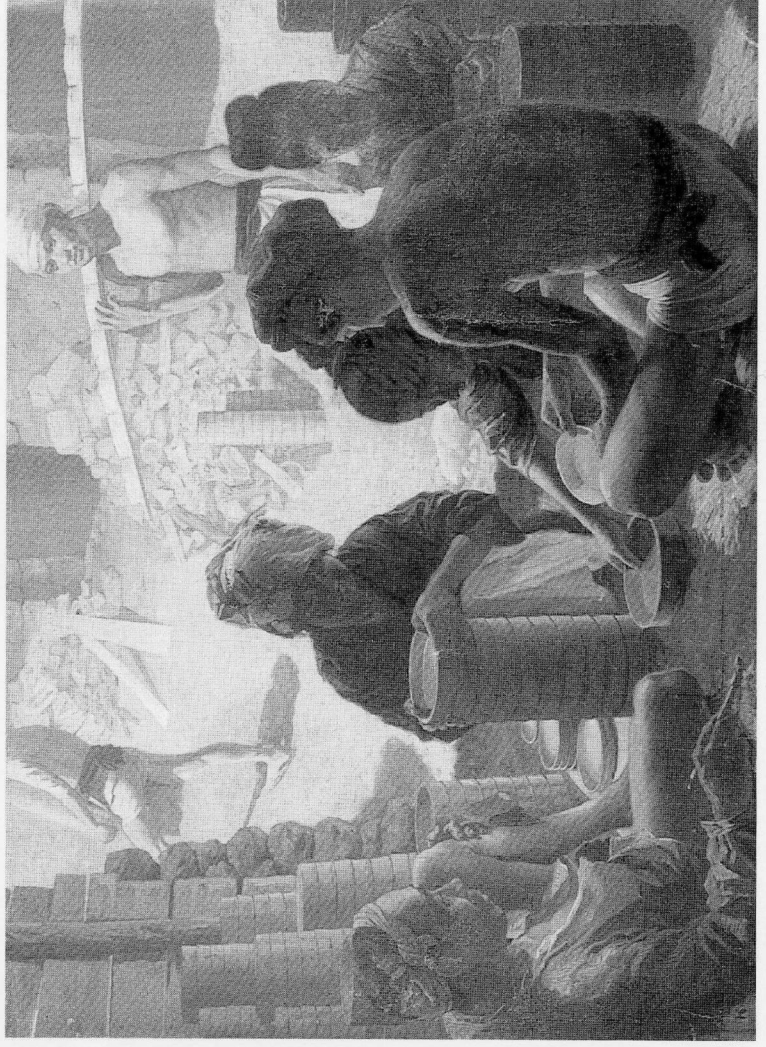
ランプ [72.0×52.5]



山里 [100.0×120.0]

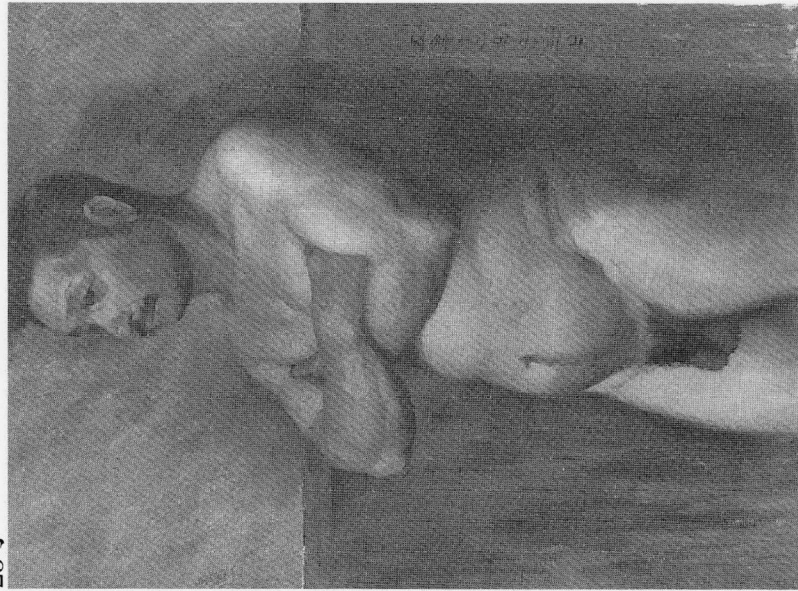


梅けずる女 [100.0×81.0]



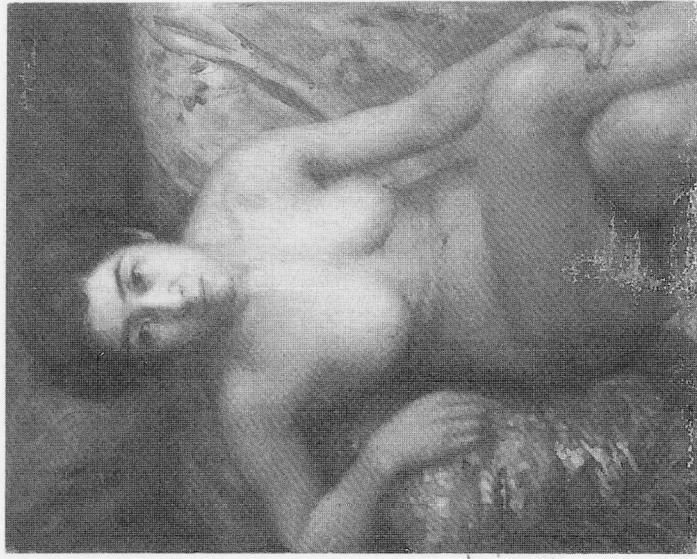
窯場の風景 [145.0×193.0] 1915 (大正4年)

25才



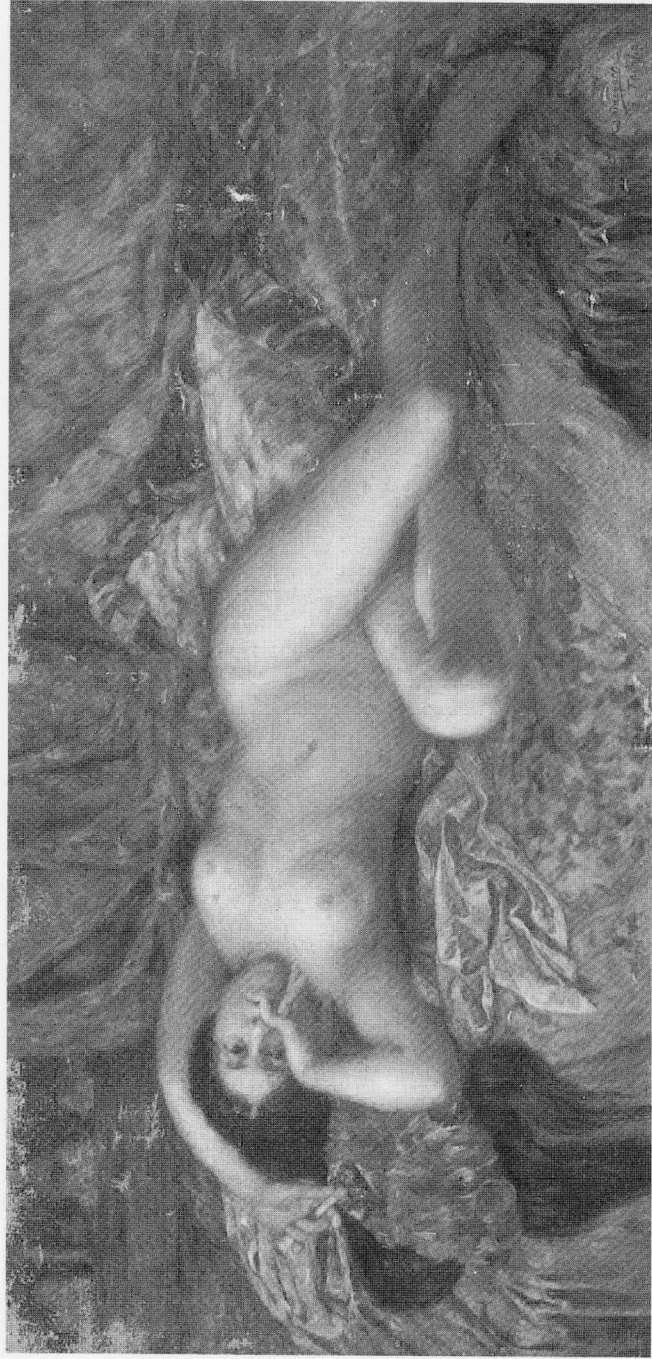
男のモデル [79.0×59.0] 1916 (大正5年)

27才



情熱 [99.0×79.0] 1917 (大正6年)

29才



横たわる裸婦 [93.0×192.0] 1920 (大正9年)

27才



稲津風景 [30.0×50.0] (水彩) 1918 (大正7年)

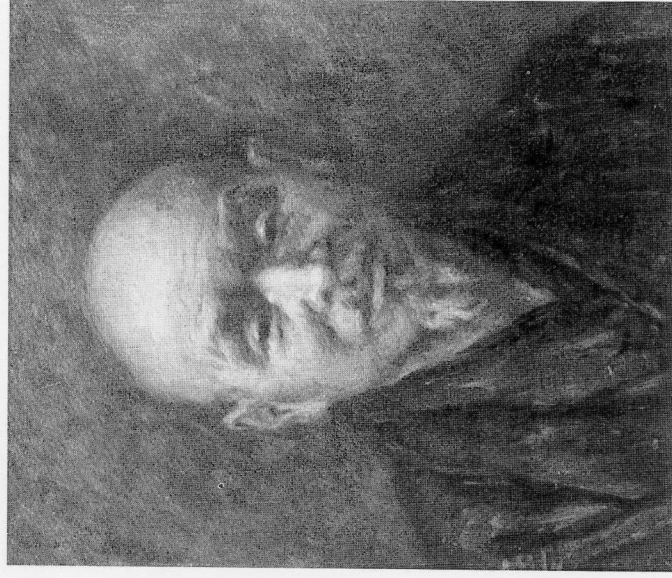
36才



藤椅子の少女 [117.0×90.0] 1927 (昭和2年)



肖像 [41.5×32.0] 大正期



老父 [53.0×45.5]



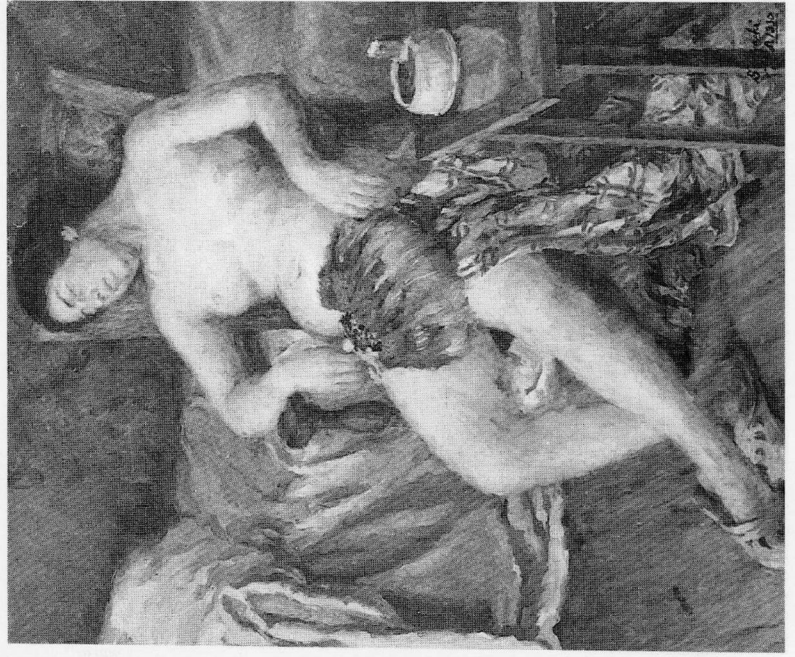
38才

泰山木 (65.5×53.5) 1930 (昭和5年)



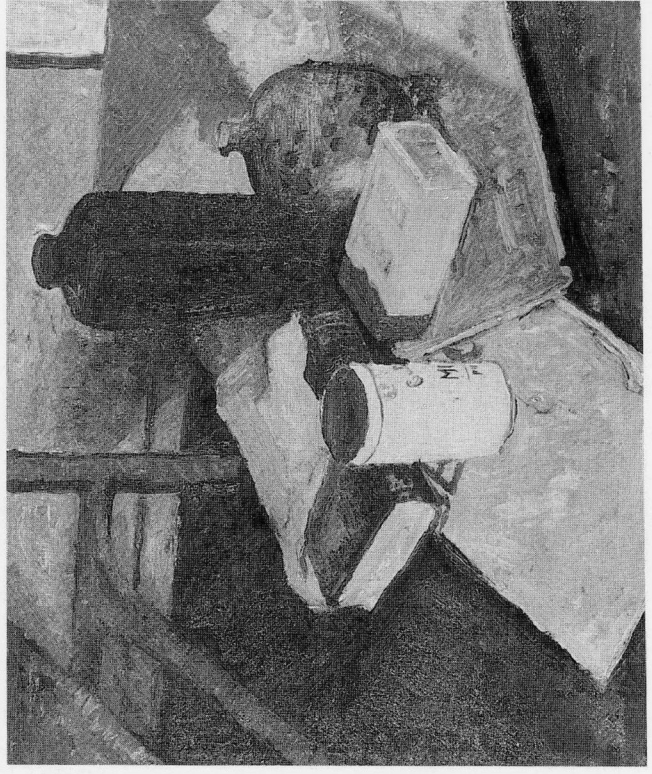
40代

あお向けの裸婦 (91.0×116.7)



38才

まどろむ裸婦 (134.0×110.0) 1930 (昭和5年)



黄色い丸カン (65.0×79.5) 1933 (昭和8年) 頃

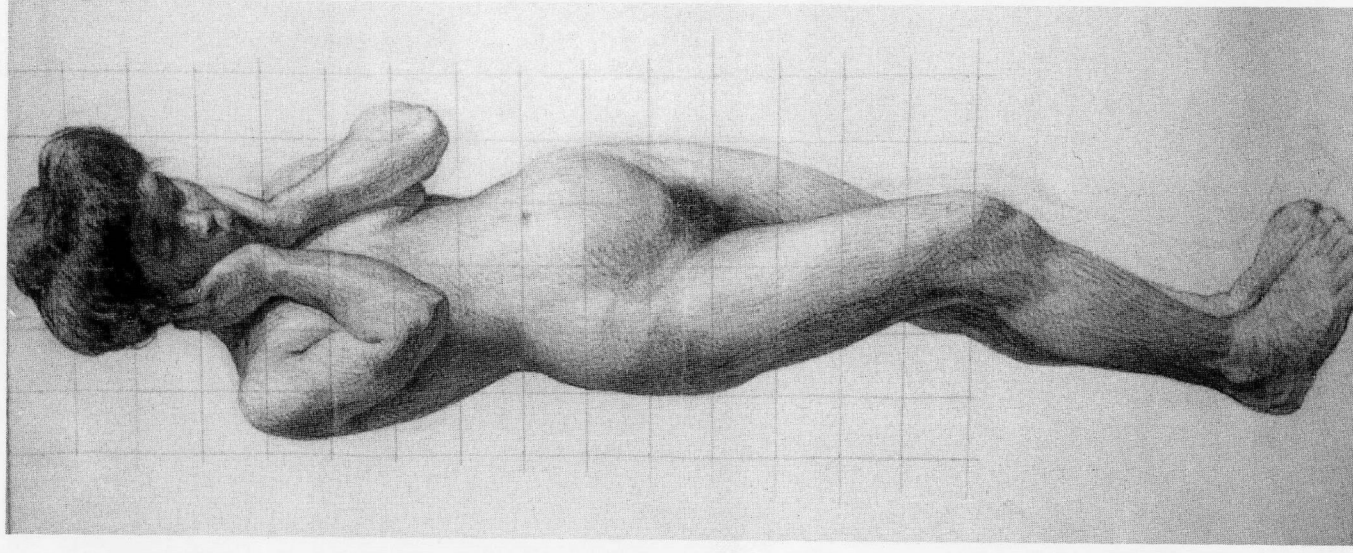


白い水差 (60.0×72.0) 1933 (昭和8年) 頃

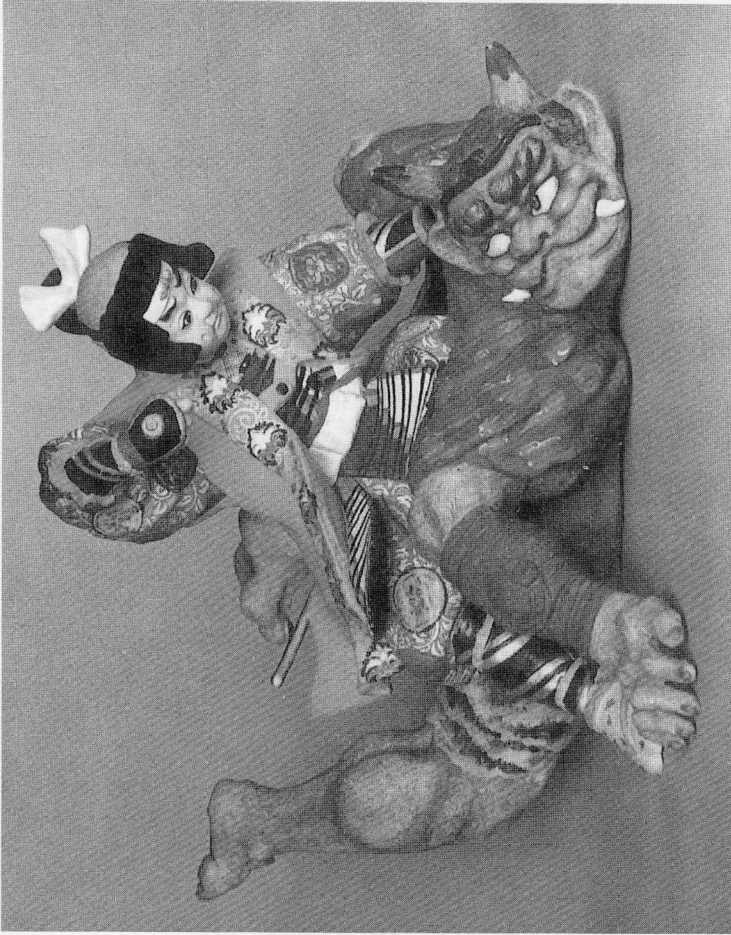


雪景色 (91.0×116.5)

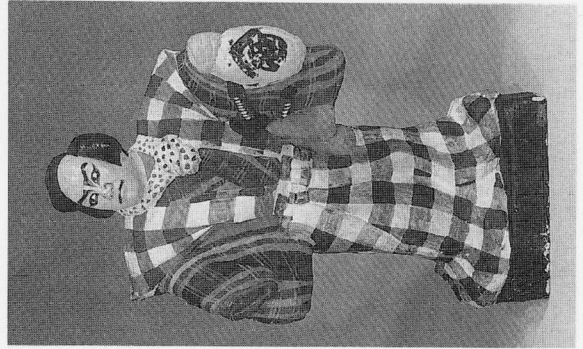
1936年 (昭和11) 10月12日東京にて没する。



デッサン裸婦 (大正初期)



土雛 桃太郎 [h.220 w.38.0] 1927 (昭和2年)



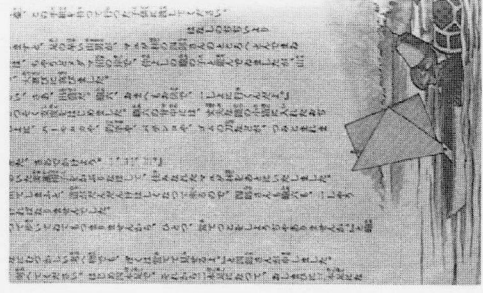
土雛 [h.31.0]



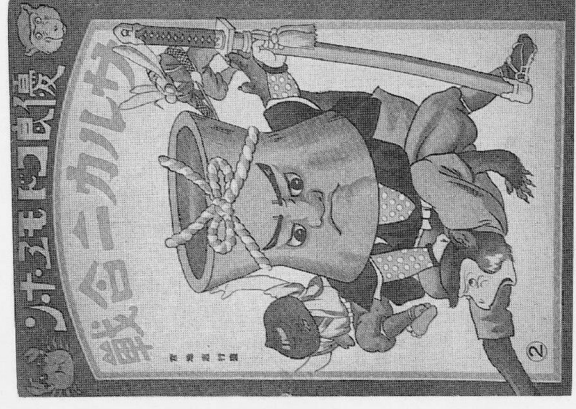
木彫 [h.38.5]



軸 [136.0×45.0]



挿絵 [22.0×27.5] 1934 (昭和9年)
雑誌「主婦之友」6月号掲載



絵本 [26.0×18.5] 1935 (昭和10年) 発刊

宮地志行 略歴 (参考 土屋千春著「半原物語」)

- 1891 (明治24)
0才

7月26日、岐阜県土岐郡日吉村半原に父 宮地文一、母 けいの長男として生まれる。名は景樹。父 文一は、当時小学校校長、のち日吉村長となる。
- 1909 (明治42)
18才

岐阜県立東濃中学校を卒業と同時に上京。岡精一の門下となり、後太平洋画会会員となる。高間惣七、中村不折にも師事する。
- 1918 (大正7)
27才

加知光枝と結婚。
- 1919 (大正8)
28才

長女伸枝生まれる。
- 1923 (大正12)
31才~

長男完自生まれる。
東京と岐阜との二重生活が続き東京においては、作家安部季雄・沖野岩三郎・北川千代、画家石井柏亭とも親交をむすび、昭和初期より雑誌の挿絵・絵本も手がける。一方地元では、画業の他に母校の日吉第一尋常高等小学校の設計案(昭和6年)を担当。土雛や半原操り人形浄瑠璃のための大道具・小道具等も製作する。
- 1936 (昭和11)
45才

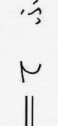
10月12日 東京慶応病院にて死去。

宮地志行 (本名 景樹) 作品登上人物関係図

〔稲津村〕



五女

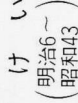


二女



宮地兵次郎

長男

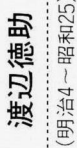


四男

美

三女

千代



長女

はる

(文久2~昭和14)

二男

重次郎 (後猪野姓となる)

五女



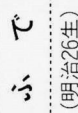
二女



長男



長女



(のち熊崎)

二女



(のち林)

陸子

早夫



内は肖像画およびモデル